

島の出産子育ての環境を良くしたい！

鹿児島県与論町 よろん出産子育て応援隊あんまあぐず

よろん出産子育て応援隊あんまあぐずは、鹿児島県与論島で、出産子育てに関する離島ならではの問題を少しでも解消し、楽しく子育てができるような環境づくりがしたい！と活動しています。あんまあぐずとは島の方言で「お母さん」のこと。その名の通り、同世代の子どもを持つお母さん5人で活動しています。

与論島とは

与論島は、鹿児島県最南端の島です。周囲23キロメートル、人口は5200人ほどの小さな島です。鹿児島本土から560キロメートル、沖縄北部の辺戸岬から23キロメートルと鹿児島県ではありませんが、沖縄

の方が近く、「東洋に浮かぶ一個の真珠」と

呼ばれるほど、海が美しい島です。自然いっぱいの子育てがしやすい環境ではあるものの、産婦人科や小児科の常駐がなく、出産や、子どもの専門的な治療などでは島外に通院しなければなりません。（※余談ですが、2月より島在住の小児科医がいて、週に数回ですが、受診できるようになりました！これまででは月に1度、島外からやってくるのみだったのでかなりの進歩です！涙）

また若者のUターンや移住、定住が少なく、子どもの数も年々減少傾向にあります。

結成の経緯と活動について

きっかけは子どもたちが乳児期に通った子

育て支援室での出会いでした。

お母さんたちと子育てについて話をしている時に「与論の子育て環境がもっとこうなったらいいな」とよく聞くようになりました。私、内野は唯一の島出身。他のメンバーは皆、内地から嫁いで来ていたり、家族で移住してきました。

私が今まで当たり前だと思っていたことが、島外の人には不憫に感じていたのだ、と気がきがたくさんありました。

そんな中で「楽しいイベントを開催したいね！」ということになり、「うまれる」という映画の自主上映を開催することになりました。島には当然、映画館はありません。

当日は自分たちが予想していた人数よりも多い、100人以上の方が来場しました。



この時に「もしかして、自分たちが普段から『あったらいいな』と思ってることって島の人も感じているのではないか」と思うようになり、それならば「自分たちが思っていることをやろう!」と、この映画上映日を結成日とし、当時の4人で団体を立ち上げました。現在は5人で活動しています。

メンバーそれぞれが、不妊治療や妊娠期のトラブルで島外での通院、入院を経験しています。自分たちがその際に「困ったこと」は後の人へ少しでも負担が軽く済むように、そしてお母さんや子どもたちが笑顔で過ごせるようにと活動しています。

出産待機施設（那覇）の運営

先にもありますが、与論島には産婦人科がなく、出産ができません。鹿児島よりも沖縄が近いことから、里帰り以外の人は沖縄で出産する人がほとんどです。飛行機や船は臨月の妊婦さんは乗ることができないことから、出産予定日の1カ月前から島を離れ、お産を待ちます。その精神的、金銭的負担はとても大きく、これからお産をするという一大事の前に「穏やかに過ごす」という環境ではないのです。

そんなことから「与論島の妊婦さんがお産

を待てる施設を那覇に設けたい」と思うようになりました。協力してくれるマンションのオーナーさんとの出会いもあり、資金ゼロだった状況から、クラウドファンディングで資金を募ることにしました。島内外から目標額以上のご支援をいただき、妊婦さんに必要な家具家電などを揃えることができ、宿泊料金も県や町からの補助額内でおさまるようにすることができました。

また、出産経験のある大家さん家族が同マンションに住んでおり、緊急時や困ったときにすぐに対応してもらうことができます。出産待機は一人で過ごすことが多いことから妊婦さんたちや、そのご家族にも「安心できた」と好評いただいています。昨年度は島内に誕生した赤ちゃんの約1/3のお母さんたちがこの施設を利用しています。

制服リユースプロジェクト [attara]

ネーミングになっている「アッタラ」とは島の方言で「もったいない」という意味。島では昔から日常的に学生服をリユースされていました。希望のサイズが見つからない、周りの友だちは子どもが同世代、島に来た



制服リユースプロジェクト [attara]

ばかりで譲ってもらえる人がいない、島から転勤で離れるが譲る人がいない。などそんなアンマッチをなくしてリユースするというプロジェクトです。不要になった制服を一度お預かりして、服飾業を営むメンバーの一人が補正をし、一定の手数料のみで、欲しい人にお渡ししています。

同じように、アンマッチの解消のため、ベビーカーやチャイルドシートなどベビー用品のマッチングサービスもしています。制服もベビー用品も皆さんから「助かった」の声を多くいただいています。

出産お祝いプロジェクト

「子は島の宝」赤ちゃんの誕生を島のみんなでお祝いしたい!そんな思いから始めたプロジェクトです。この思いに賛同していただ

子育てをより楽しくしたいと、不定期でイベントを開催しています。子育て中の凝った身体を整えるためのピラティスイベントや、たまにはママだけで海を満喫してもらいたくて始めたママSUP体験会など、

ママや子どもたちのためのイベント開催

このプロジェクトは2年目になります。初年度は協賛店が15店舗でしたが、今年度は34店舗と増えました。

また、店舗さん側からも「直接おめでとうと言えぬから嬉しい」「スタンプカードを持つたお母さんが数名で来てくれた!」と、喜びの声をいただいています。

また、店舗さん側からも「直接おめでとうと言えぬから嬉しい」「スタンプカードを持つたお母さんが数名で来てくれた!」と、喜びの声をいただいています。



踊絵師神田さおりさんによるイベント町内のこども園にご協力いただき、年長さんたちを招待しました



ママ向けSUP体験会子どもとは海に行くけれど、ママだけではなかなか行く機会がないという声を聞いて開催しました

ママ向けのイベントはもちろんのこと、娯楽や芸術に触れることが少ない島の子どもたちを集め、踊絵師の神田さおりさんのもと、絵の具まみれになりながら、音楽を聞き踊る、というようなこともやりました。乳児にはベビーマッサージ、幼児期の子どものおもちゃ作りなども行っています。

来年度は、ゲームやネットに依存しがちな子どもたちと外で遊ぶ。子どもの時に必要な身体の使い方を、遊びを通して体験してもらおう、というイベントを予定しています。

「島だからこそできることをやろう! どうせならお母さんたちにも声をかけよう!」メンバーが出した「これやりたい」がイベントにつながっています。

2019年4月より念願だった事務局を設けることができました。訪ねて来てくれるお母さん、赤ちゃんや子どもたちと直接触れる



ピラティスイベント保育士さんに協力をお願いし、託児ありで開催しました

機会が多くなりました。けれど、まだまだ島の人たちみんなに知ってもらえてはいません。必要なところに必要な情報が行き渡っていないように感じます。そこで、2020年は法人化を目指し、行政と協力して、今後もっと島の子育て環境が良くなるようにしていきたいと考えています。また、今の子どもたちがどうい環境にあって、どういうことに困っているのか、私たちはそれに対して何ができるのか。常に考えていけたらと思っています。島で育った子どもたちが、高校を卒業して島を出る時に「与論島で育ってよかった」「ここで子育てしたい」と思ってもらえたら嬉しいですね。

(よろん出産子育て応援隊あんまあず)

代表 内野正世